

体験学習用 課題フォルダ

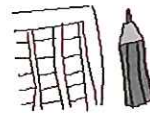
体験学習の二回分は、この課題フォルダを使ってください。



言葉の森 234-0054 横浜市港南区港南台4-3-1 電話 0120-22-3987(045-830-1177)

① 体験学習の一週目

幼長〜小三はP4〜P6、小四〜小五はP7〜P9、小六〜中高生はP10〜P12に教材があります。



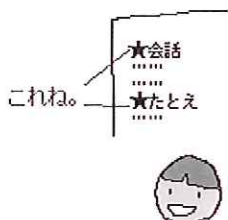
② その週の課題を見て書くことを決めておいてください。家族に似た話を聞くと話題が広がります。

③ 担当の先生から、体験学習の日に電話があります。

④ 時間から十分たっても電話が来ない場合は、教室までお問い合わせください。（受付午後八時まで）

⑤ 電話のあとすぐに書き始めて、途中で休まずにその日のうちに書き終えてください。

⑥ 「項目表」の★のついている項目の左はしに㊦㊧㊨㊩という項目マークが書いてあります。



⑦ 作文を書いたあと、その項目のできたところの余白に項目マークを書いておいてください。

⑧ 作文を書いていて、わからなくなったら教室に電話をして聞いてください。



⑨ 書き終えた作文については、注意をしたり手直しをしたりせず、いいところを褒めてあげてください。

⑩ 作文に自分の住所シールを貼る、封筒用紙には先生の住所シールを貼ってください。

⑪ 作文は、翌日の午前中までにポストに投函してください。これで一週目は終わりです。

⑫ 海外の生徒は、「学習の手引」の「手書きの作文のアップロード」を参照して送ってください。

① 体験学習の二週目

二週目の電話がある前までにやっておくことが三つあります。

② その一、課題を見て、次の週に書くことを考えておきましょう。



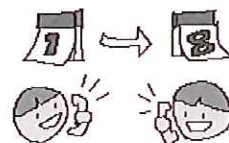
③ その二、読書を毎日十ページ以上していきましょう。

④ その三、余裕のある人は、長文の暗唱三〇〇字に挑戦してみましょう。(※まだ勉強に慣れていないうちは、やらなくても結構です。)

⑤ 二週目の授業までに作文が返却されますが、郵便事情などで返却が遅れることもあります。その場合でも、先生は先週の作文をもとに指導しますので勉強には差し支えありません。

⑥ 作文の返却とは別に、「山のたより」「言葉の森新聞」という印刷物が送られてきます。

⑦ 二週目の同じ時間に、担当の先生から二回目の電話があります。



⑧ 暗唱の自習をした人は、先生に暗唱のチェックをしてもらいましょう。(※まだ勉強に慣れていないうちは、やらなくても結構です。)

⑨ その日に読んでいる本を一冊、作文用紙に書いておきましょう。

⑩ 二回目の作文も、同じように書いて提出します。これで体験学習は終わりです。

⑪ 二回目の作文は、三週目までに返却され、「山のたより」「言葉の森新聞」も送られてきます。



⑫ 体験学習のあと入会される場合は、三週目の授業がある日までに教室までご連絡ください。

① 入会後の勉強

入会後は、「体験学習用課題フォルダ」とは別の「その学期の課題フォルダ」で勉強していきます。

② 電話を受ける前に書くことを

考えておきましょう。
毎日の自習は次のようにしていきます。



③ その一、毎週の長文をできるだけ一日一回音読します。(※まだ勉強に慣れていないうちは、やらなくても結構です。)

④ その二、暗唱が続けられる人は続けていきましょう。(※まだ勉強に慣れていないうちは、やらなくても結構です。)



⑤ その三、毎日十ページ以上の読書をしていきましょう。作文用紙に書名を一冊書いておきましょう。

⑥ 自習の進め方については、いつでも教室にご相談ください。家庭では次のように勉強を進めてください。

⑦ 作文は他人と比較せずに、いつも本人の作文のいいところを認めてあげてください。

⑧ 作文は直したり注意したりせずに、項目のできたところを中心に見てあげてください。



⑨ 親子の対話が国語力を育てます。作文や長文をもとに親子で楽しく話をする時間を作ってください。

カレンダーで、次の授業が何曜日になるかを見ておきましょう。

2013年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1 休	2 休	3 休	4 休	5 休
6 休	7 1.1	8 1.2	9 1.2	10 1.2	11 1.2	12 1.2
13 休	14 1.2 休	15 1.3	16 1.3	17 1.3	18 1.3	19 1.3
20 休	21 1.3	22 1.4	23 1.4	24 1.4	25 1.4	26 1.4
27 休	28 1.4	29 休	30 休	31 休		

2013年 2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1 2.1	2 2.1
3 休	4 2.1	5 2.1	6 2.1	7 2.1	8 2.2	9 2.2
10 休	11 2.2 休	12 2.2	13 2.2	14 2.2	15 2.3	16 2.3
17 休	18 2.3	19 2.3	20 2.3	21 2.3	22 2.4	23 2.4
24 休	25 2.4	26 2.4	27 2.4	28 2.4		

2013年 3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1 3.1	2 3.1
3 休	4 3.1	5 3.1	6 3.1	7 3.1	8 3.2	9 3.2
10 休	11 3.2	12 3.2	13 3.2	14 3.2	15 3.3	16 3.3
17 休	18 3.3	19 3.3	20 3.3 休	21 3.3	22 3.4	23 3.4
24 休	25 3.4	26 3.4	27 3.4	28 3.4	29 休	30 休
31 休						

2013年 4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1 4.1	2 4.1	3 4.1	4 4.1	5 4.1	6 4.1
7 休	8 4.2	9 4.2	10 4.2	11 4.2	12 4.2	13 4.2
14 休	15 4.3	16 4.3	17 4.3	18 4.3	19 4.3	20 4.3
21 休	22 4.4	23 4.4	24 4.4	25 4.4	26 4.4	27 4.4
28 休	29 休	30 休				

課題集 幼長～小3 の山

週	課題	週	課題
体験 1週目	★自由な題名で書いてください。 (「きょうのこと」「このあいだのこと」などが書きやすい)	体験 2週目	★自由な題名で書いてください。 (「きょうのこと」「このあいだのこと」などが書きやすい)

項目表 幼長～小3 の苗 (幼長～小3)

目標:正しい表記を身につけ楽しく書く習慣をつける

項目の★印ができるように書いていきましょう。段落は大体の目安にすぎません。



第1段落	項目	キーワード	説明
㊦ 構成	★ はじめに絵をかく	<<構成>>	中心を決めるために絵をかく
㊦ 題材	★ 名前・数字	名前 数字 なまえ すうじ <<題材>>	名前や数字をくわしく書く
↓			
第2段落	項目	キーワード	説明
㊦ 題材	★ 会話	「 」 長い会話 <<題材>>	会話を思い出して書く
↓			
第3段落	項目	キーワード	説明
㊦ 表現	★ たとえ	まるで みたい よう <<表現>>	まるで…のよう
↓			
第4段落	項目	キーワード	説明
㊦ 主題	★ 思ったこと	思 おも <<主題>>	思ったことを書く
↓			
字数	★ 50字以上	長く書ける人は200字ぐらいを目標に	

項目の書き方 (どれか一つ以上ができるように書きましょう)

★はじめに絵をかく (㊦構成)

作文を書きだす前に、作文に書こうと思っていることを絵でかいてみましょう。

★数字 (㊦題材)

そのときの数字がわかるように書いてみましょう。

ぼくは、朝早く起きました。→ぼくは、朝五時に起きました。

★会話 (㊦題材)

そのときのだれかの言ったことを「カギカッコ」を使って書いてみましょう。

お母さんは、
「早くおいで」
と言いました。

★たとえ (㊦表現)

「まるで……」「……みたい」「……よう」などの言葉でたとえを使って書いてみましょう。

わたしのお父さんは力が強いので、まるで怪獣(かいじゅう)のようです。

★思ったこと (㊦主題)

作文の途中や最後に、自分の思ったことを書いてみましょう。

ぼくは、おなかがすいたなあと思いました。

※★印の項目ができれば、作文用紙の余白に、㊦ ㊦ ㊦ ㊦などのマークをそれぞれ書いておきましょう。

絵をかいたところに



きょうのこと

小一 もりの はなこ

すうじのところに

きょう、わたしは、あさ五じにおきまし

なまえのところに

た。きょうは、よこはまのおじいちゃんの

いえにいく日です。おかあさんが、

「□□」のところに

「はやくおいで。」

といいました。おとうさんは、もうにもつ

をはこんでいます。おとうさんは力がつよ

たえ（まるで）のところに

いので、まるでかいじゅうみたいです。

わたしは、あさはやくて、おなかがすい

思ったところに

たなあと思いました。

項目（こうもく）のできたと

ころに

クをかきましょう。

絵は、作文用紙（さくぶんよ

うし）にかいていいです。

できたところをしかくでかこ

む必要（ひつよう）はありません

ん。

項目（こうもく）は、どれか一

つができていれば合格（ごうかく）

くです。



●保護者の方へ： 作文が書けたら直さずに、いいところだけ見て、そのまま提出してください。

暗唱長文（幼長～小3）ママの床屋さん

1 今日（きょう）は、お母（か）さん（あ）に髪（かみ）を切（き）ってもら（もら）う日（ひ）です。ぼく（きょうだい）たちは兄弟（きょうだい）は、お母（か）さん（あ）に髪（かみ）を切（き）ってもら（もら）うことを、ママ（とこや）床（とこや）屋（や）と呼（よ）んでいます。いつもママ（とこや）床（とこや）屋（や）なので、ぼく（きょうだい）は一度（ひと）も床（とこや）屋（や）さん（あ）へ行（い）ったことがありません。

2 「準備（じゅんび）でき（き）たよ。ひとりず（ひとり）つお（お）いで。」

お風（ふう）呂（ろ）場（ば）からお母（か）さん（あ）の声（こゑ）が響（ひび）きます。ママ（とこや）床（とこや）屋（や）は、お風（ふう）呂（ろ）場（ば）で（みせ）お店（ひら）を開（ひら）くのです。夏（なつ）は暑（あつ）いので裸（はだか）でち（ち）ょうどいいけれど、冬（ふゆ）のママ（とこや）床（とこや）屋（や）はぶるぶる震（ふる）えてしま（しま）います。

3 ぼく（きょうだい）は急（いそ）いで服（ふく）を脱（ぬ）ぎ、お風（ふう）呂（ろ）場（ば）へ飛（と）んでい（い）きました。

お母（か）さん（あ）は右（みぎ）手（て）にバ（バ）リカ（カ）ン（ン）を持（も）ち、ぼく（きょうだい）を見（み）るとにっ（に）こり（り）しま（しま）した。

「さあ、切（き）ろうか。下（した）を向（む）か（か）ないで、ち（ち）ゃん（ん）と前（まえ）を見（み）て（て）ね。」

4 そうい（い）な（な）が（が）ら、バ（バ）リカ（カ）ン（ン）のスイ（スイ）ツ（ツ）チ（チ）を入（い）れ（れ）ま（ま）した。ウイ（ウイ）ーン（ン）と、バ（バ）リカ（カ）ン（ン）の音（おと）が耳（みみ）の近（ちか）くで聞（きこ）え（え）ま（ま）す。と（と）き（き）ど（ど）き（き）

髪（かみ）の毛（け）が引（ひ）つ張（は）られ（れ）る（る）ので、ぼく（きょうだい）は、

「いて（て）っ。」

と、ま（ま）る（る）でカ（カ）メ（メ）のよう（よう）に首（くび）をすく（すく）め（め）ま（ま）す。

5 お母（か）さん（あ）は、

「だ（だ）め（め）だ（だ）め（め）。ま（ま）っ（っ）す（す）ぐ（ぐ）に（に）し（し）て（て）い（い）ない（ない）と、変（へん）な（な）と（と）ころ（ころ）を切（き）ち（ち）や（や）う（う）よ。」

と（と）い（い）ま（ま）す。バ（バ）リカ（カ）ン（ン）に刈（か）れ（れ）た髪（かみ）の毛（け）が、パ（パ）サ（サ）リ（リ）パ（パ）サ（サ）リ（リ）とぼく（きょうだい）の肩（かた）や背（せ）中（な）にく（く）っ（っ）つ（つ）き（き）ま（ま）す。その（その）う（う）ち（ち）、ち（ち）く（く）ち（ち）く（く）と刺（さ）し（し）て（て）き（き）ま（ま）す。

6 体（からだ）中（な）か（か）ゆ（ゆ）く（く）て（て）た（た）ま（ま）り（り）ま（ま）せ（せ）ん（ん）。

「あ（あ）あ（あ）、も（も）う（う）限（げん）界（かい）だ（だ）あ（あ）。」

と、ぼく（きょうだい）が我（が）慢（まん）で（で）き（き）な（な）く（く）な（な）る（る）こ（こ）ろ（ろ）、後（うし）ろ（ろ）の髪（かみ）のカ（カ）ッ（ッ）ト（ト）が終（お）わ（わ）る（る）の（の）で（で）す。

「で（で）きた（きた）、で（で）きた（きた）。じ（じ）ゃ（ゃ）あ（あ）、今（こん）度（ど）は（は）前（まえ）髪（かみ）。さ（さ）、こ（こ）っ（っ）ち（ち）向（む）い（い）て（て）。」

ぼく（きょうだい）は、く（く）る（る）り（り）と振（ふ）り（り）向（む）き（き）ま（ま）した。7 目（め）をつ（つ）ぶ（ぶ）り（り）、動（うご）か（か）ない（ない）よう（よう）に息（いき）を止（とど）め（め）ま（ま）す。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

「はい、終（お）わ（わ）り（り）。頑（がん）張（ば）っ（っ）た（た）ね（ね）。」

ぼく（きょうだい）は目（め）を開（あ）け（け）ま（ま）した。お母（か）さん（あ）は、少（すこ）し（し）離（はな）れてぼく（きょうだい）を眺（なが）め（め）て（て）い（い）ま（ま）す。ぼく（きょうだい）が動（うご）いた（た）か（か）ら変（へん）な（な）と（と）ころ（ころ）を切（き）っ（っ）て（て）し（し）ま（ま）った（た）の（の）で（で）な（な）い（い）か（か）と心（しん）配（ぱい）に（に）な（な）り（り）ま（ま）す。

8 「うん。い（い）ん（ん）じ（じ）ゃ（ゃ）な（な）い（い）。床（とこや）屋（や）さん（あ）じ（じ）ゃ（ゃ）な（な）い（い）の（の）に（に）、な（な）か（か）な（な）か（か）う（う）ま（ま）い（い）ね（ね）。」

と、お母（か）さん（あ）が言（い）い（い）ま（ま）した（た）。ぼく（きょうだい）はほ（ほ）っ（っ）と（と）し（し）ま（ま）した（た）。

シャ（シャ）ワ（ワ）ー（ー）で洗（あら）い（い）流（なが）す（す）と、ち（ち）く（く）ち（ち）く（く）し（し）た（た）の（の）が（が）取（と）れ（れ）て（て）す（す）っ（っ）き（き）り（り）し（し）ま（ま）した（た）。9 くも（くも）った（た）鏡（かがみ）を（を）ご（ご）し（し）と（と）手（て）で（で）拭（ふ）い（い）て（て）、ぼく（きょうだい）の顔（かお）を映（うつ）し（し）て（て）み（み）ま（ま）した（た）。い（い）つ（つ）も（も）と違（ちが）う（う）ぼく（きょうだい）の顔（かお）です。自（じ）分（ぶん）で（で）も（も）な（な）か（か）な（な）か（か）格（か）好（こう）い（い）な（な）と（と）思（おも）い（い）ま（ま）した（た）。10

（言葉（ことば）の森（ちようふん）長（さく）文（せい）作（ざい）成（けい）委（いん）員（かい）会（かい）

（言葉（ことば）の森（ちようふん）長（さく）文（せい）作（ざい）成（けい）委（いん）員（かい）会（かい）

ω

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題集 小4～小5 の山

週	課題	週	課題
体験 1週目	★がんばったこと (書きにくいときは、「今日のこと」などという題名で)	体験 2週目	★いたかった思い出 (書きにくいときは、「今日のこと」などという題名で)

項目表 小4～小5 の苗 (小4～小5)

目標: 表現をくふうし、長くわしく書く

項目の★印ができるように書いていきましょう。段落は大体の目安にすぎません。



第1段落	項目	キーワード	説明
㊦ 構成	★ 書き出しの工夫／作文	書き出しの工夫 <<構成>>	会話・色・音・情景で書き出す



第2段落	項目	キーワード	説明
㊦ 題材	★ 会話	「 」 長い会話 <<題材>>	会話を思い出して書く
㊦ 表現	★ たとえ	まるで みたい よう <<表現>>	まるで…のよう



第3段落	項目	キーワード	説明
㊦ 題材	★ 前の話聞いた話	前 聞 調べ <<題材>>	前の話、聞いた話、調べた話



第4段落	項目	キーワード	説明
㊦ 主題	★ 思ったこと	思 おも <<主題>>	思ったことを書く

字数	★ 300字以上	長く書ける人は800字ぐらいを目標に 長く書けない人は100字以上を目標に
----	----------	--

項目の書き方 (どれか一つ以上ができるように書きましょう)

★書き出しの工夫 (㊦構成)

「やったあ。」

ぼくはさげました。小学校2年生のとき、はじめてリレーのせんしゅにえらばれたのです。そのとき……

★会話 (㊦題材)

そのときのだれかの言ったことを「カギカッコ」を使って書いてみましょう。

★たとえ (㊦表現)

「まるで……」「……みたい」「……よう」などの言葉でたとえを使って書いてみましょう。

私の母は、いつもにこにこしていて、まるでお日様のような。

★前の話、聞いた話 (㊦題材)

作文の途中に、前の話や、お父さんお母さんなどに聞いた話を入れてみましょう。

(小学校二年生のころの話を書いたあと)

小学校一年生のときには、算数の勉強でがんばったことがあります。それは……

ぼくは、お母さんにも似た話を聞いてみました。すると、お母さんががんばったのは、マラソン大会でした。それは……。

★思ったこと (㊦主題)

作文の途中や最後に、自分の思ったことを書いてみましょう。

ぼくは、また挑戦 (ちょうせん) してみようと思いました。

※★印の項目ができたら、作文用紙の余白に、㊦ ㊦ ㊦ ㊦などのマークをそれぞれ書いておきましょう。

がんばったこと

小四 森野 一郎

「やったあ。」

ぼくはさげびました。やっと工作がかん
せいしたのです。お母さんは、

会話のところに

「よかったね。」

たとえのところに

と言いました。お母さんは、にこにこして
まるでお日さまのようです。

前の話や聞いた話のところに

ぼくは、お父さんにもにた話を聞いてみ
ました。すると……（略）……。

思ったところに

ぼくは、また、ちようせんしてみようと
思いました。

項目（こうもく）のできたと

ころに（こう）などのマー

クをかきましよう。

できたところを（しかく）で囲む

必要（ひつよう）はありません。

項目（こうもく）は、どれか一

種類（しゆるい）ができていれば合格（ごう

かく）です。



●保護者の方へ： 作文が書けたら直さずに、いいところだけ見て、そのまま提出してください。

暗唱長文（小4～小5）お母さんは看護師

1 「おかえりなさい。」

水曜日の朝のあいさつは、おはようではありません。私のお母さんは看護師です。夜勤と言って夕方から夜の間、病院で働くことがあ
るのです。2 入院している患者さんは、寝ている間も具合が悪くな
ったり、どこか痛くなったりするので、一晩中、ナースステイシ
ョンには看護師さんが起きています。ベッドのそばのブザーを押す
と、飛んできてくれるのです。だから、安心して入院できるので
す。

3 お母さんの夜勤の晩は、お父さんと二人です。夕ご飯も、お父
さんが作ってくれます。お父さんの作るご飯は、お母さんのときと
少し違います。味が少し塩辛くて、野菜やお肉の切り方が大きいで
す。4 お母さんのときは、おかずの種類もたくさんありますが、お
父さんのときは、あまりありません。お父さんの作るメニューの中
で、いちばんおいしいのはカレーライスです。

お母さんは、お父さんと結婚する前からずっと看護師です。5
子供のときからなりたかった職業だそうです。看護師になるための
学校は、勉強がとても大変で、普通の学校のような勉強だけでな
く、実際にやってみる看護実習というのがあったそうです。でも、
お母さんは、看護師になる日を夢見て、いっしょけんめいがんば
ったと言っていました。

6 私が生まれるときだけお休みしましたが、あとはずっと今も
看護師です。お友だちに

「うちのお母さん、看護師なんだ。」
と話すと、みんなびっくりして
「いいなあ。」

とうらやましがります。女の子の中では、人気のある職業だからで
す。7 でも、実際は夜勤もあるし、とても忙しい大変な仕事なのだ
ということを知らないんだなあと私は心の中で思っています。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

お母さんは、時々、
「ゆきちゃん、肩をもんでくれる？」

と言います。そんなときのお母さんの肩は、力こぶを入れたように
かたくなっています。私は、ちよūdよい力でもみほぐしてあげま
す。8 すると、お母さんは、

「ああ、気持ちいい。最高。」

と喜びます。肩のほかに、首や足のふくらはぎをやってあげること
もあります。長い時間やっているとお母さんはうたた寝してしま
うこともあります。

そんなに大変な仕事だというのに、お母さんは今まで一度もやめ
たいと思っただことがないそうです。9 この間、私が

「どうして看護師をずっと続けたいと思うの？」
と聞いてみたら、お母さんは、

「そうねえ。患者さんから、ありがたうって言われたとき、人の役
に立てたんだなあって思えるからかな。」

0
と言ってにっこり笑いました。

（言葉の森長文作成委員会 ぬ）

課題集 小6～中高生 の山

週	課題	週	課題
体験 1週目	★私(ぼく)の好きな遊び (書きにくいときは、「今日のこと」などという題名で) (ゲームのような指先だけの遊びよりも、体を動かす遊びの方が書きやすい)	体験 2週目	★私(ぼく)の宝物 (書きにくいときは、「今日のこと」などという題名で)

項目表 小6～中高生 の苗 (小6～中高生)

目標:構成を考え感想に重点を置いて書く

項目の★印ができるように書いていきましょう。段落は大体の目安にすぎません。



第1段落	項目	キーワード	説明
㊦ 構成	★書き出しの工夫／作文	書き出しの工夫 <<構成>>	会話・色・音・情景で書き出す



第2段落	項目	キーワード	説明
㊦ 題材	★会話	「 」 長い会話 <<題材>>	会話を思い出して書く
㊦ 表現	★たとえ	まるで みたい よう <<表現>>	まるで…のよう



第3段落	項目	キーワード	説明
㊦ 題材	★前の話聞いた話	前 聞 調べ <<題材>>	前の話、聞いた話、調べた話



第4段落	項目	キーワード	説明
㊦ 主題	★一般化の主題	人 人間 一般化 <<主題>>	…は人間にとって…である
㊦ 主題	★思ったこと	思 おも <<主題>>	思ったことを書く

字数	★500字以上	長く書ける人は1000字ぐらいを目標に 長く書けない人は100字以上を目標に
----	---------	---

項目の書き方 (どれか一つ以上ができるように書きましょう)

★書き出しの工夫 (㊦構成)

「バシッ」

私のアタックが決まった。私の好きな遊びは、バレーボールだ。私はいつも……

★会話 (㊦題材)

そのときのだれかの言ったことを「カギカッコ」を使って書いてみましょう。

★たとえ (㊦表現)

「まるで……」「……みたい」「……よう」などの言葉でたとえを使って書いてみましょう。

先生の引き出しは、まるでドラえもののポケットのようだ。

★前の話、聞いた話 (㊦題材)

作文の途中に、前の話や、お父さんお母さんなどに聞いた話を入れてみましょう。

(小学校四年生のころの話を書いたあと)

小学校一年生のとき、私の好きな遊びはお人形さんごっこだった。そのときは……

私は、父にも似た話を聞いてみた。すると、父の好きな遊びは秘密基地作りだったそうだ。それは……

★一般化の主題 (㊦主題)

作文の感想に、「人間は……」「……は人間にとって」など、「人間」という言葉を入れて書いてみましょう。

遊びを通して、人間は、いろいろなことを学んでいくのだと思った。

★思ったこと (㊦主題)

作文の途中や最後に、自分の思ったことを書いてみましょう。

※★印の項目ができれば、作文用紙の余白に、㊦ ㊦ ㊦ ㊦などのマークをそれぞれ書いておきましょう。

書き出しの工夫のところに

①
「バシッ。」

私の好きな遊び

小六 森野 葉子

私のアタックが決まった。私の好きな遊

びは、バレーボールだ。見ていた父は、

会話のところに

④
「よし、そうだ。」

たとえのところに

⑤
と云って まるでドラえもんのように笑っ

た。

前の話や聞いた話のところに

⑥
私は、父にも似た話を聞いてみた。する

と…… (略) ……

「人間」のところに

⑦
私は、遊びを通して人間はいろいろなこ

思ったところに

⑧
とを学んでいくのだと思った。

項目(こうもく)のできたと

ころに①②③④などのマー

クをかきましょう。

できたところを⑤⑥で囲む

必要(ひつよう)はありません。

項目(こうもく)は、どれか一

種類ができていれば合格(ごう

かく)です。



●保護者の方へ： 作文が書けたら直さずに、いいところだけ見て、そのまま提出してください。

暗唱長文（小6～中高生）僕の机

1 僕の机は、兄からもらったものだ。すっかりした作りで茶色く光っている。よく見ると、何かのシールをはってはがした跡がある。

ぼくがそれまで使っていた机は、小さくて、机の上に資料を並べきれないことがよくあった。2 すると、それを見ていた母が、「お兄ちゃんの机と交換したら」と言ってくれた。兄は、近所にいる人が遠くの学校に行くようになったので、その机をもらうようになったらしい。

こうして、僕は、兄の大きい机を使うことになった。3 大変だったのは、これまでの机の引き出しの中にある細々としたものを移す作業だった。引き出しの中身を出してみると、いろいろ懐かしいものが出てきた。いちばんの収穫は、なくしたとばかり思っていたキラカードが出てきたことだ。4 これは、小学校二年生のころに熱中したもので、もう今では遊ばないが、ぼくにとっては大切な宝物だった。中身を移したこれまでの机は、もう古くなっていたので、粗大ゴミに出すことになった。

その晩、父が帰ってきて、ぼくの机を見て言った。5 「おお、お兄ちゃんの机にしたのか。今の子は、いいなあ。お父さんのころは、みんな、食卓で勉強をしたんだぞ。」

父が小学生のころ、食事のあとのテーブルで学校の宿題の作文を清書していたらしい。6 最後の一枚を仕上げて、「やっとできた。万歳」と手を上げたときに、近くの醤油を作文の上にこぼしてしまった。それを見た祖母が、「一度はきれいに書いたんだから、いいんじゃない」と言ってくれたので、父は醤油を拭いてそのまま提出することにした。7 翌日、担任の先生はその作文を見ると、「これは味のある作文だ」と言って大笑いしたらしい。ぼくは、その話を聞いて、何だか昔ののどかな映画を見ているような気がした。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

数日後、粗大ゴミとなった昔の机の回収日が来た。8 朝早く、ぼくと母は、机を指定の場所に運んだ。中身が空っぽになった机は、仕事をすっかり終えたおじいさんのようだった。ぼくが学校に行くときも、机はまだそのままだった。

その日の授業を終えて家に帰るとき、朝、机を置いた場所を見ると、そこにはもう何もなかった。9 そのとき、僕は、その机は僕の友達だったのだなあと分かった。

家に入ると、兄からもらった新しい茶色の机があった。それを見ていると、昔の机が遠くからこう語りかけてくるようだった。10 「これまで長い間、ありがとう。僕の仕事は新しい机君に引き継いだから大丈夫。」

ぼくは、うんとうなずくと、新しい机の上に静かにカバンを置いた。

（言葉の森長文作成委員会 Σ）

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

勉強時間に余裕のある人は、 暗唱の自習に挑戦してみよう。

【暗唱の手順 一日分】

・一日目は、まず、**1**の文章を三〇回音読します。最初の数回はゆっくり正確に「てにをは」などを間違えないように読みます。

正確に読めるようになったら、ある程度早口で棒読みで、句読点などであまり息継ぎをせずに読んでいきます。

イスにきちんと座って読むと読みにくい場合は、歩き回りながら読んでもかまいません。

お母さんやお父さんは、読み方の注意などは一切せずにただ優しく褒めるだけにしてください。

一五回ぐらいでもう空で言えるようになることが多いと思いますが、できるだけ三〇回続けて読んでください。

これでその**1**の文章が暗唱できるようになります。

三〇回音読しても暗唱できない場合は、もう一〇回音読してください。

それでもできない場合は、暗唱の練習はいったん終了してかまいません。また機会を見てやっていきましょう。

※暗唱のような短い時間の学習は、夕方に行うとすると忘れてしまうことがあります。また、毎日同じようにやらないとできるようになりません。できるだけ、朝ご飯の前などに、家族のいる中でやるようにしましょう。

そして、暗唱を毎日やるのが難しい場合は、暗唱の練習はせずに、読書の方に力を入れてみてください。

【暗唱の手順 一週間分】

・一日目に、**1**の文章を暗唱できるようにします。

・二日目は、**2**の文章だけを同じように三〇回音読し、暗唱できるようにしておきます。

・三日目は、**3**の文章だけを同じように三〇回音読し、暗唱できるようにしておきます。

・四日めは、**1**、**2**、**3**の全部通して、一〇回音読します。すぐに暗唱できなくてもかまいません。

・五日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、一〇回音読します。

・六日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、一〇回音読します。

・七日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、一〇回音読します。すると、**1**から**3**の全部の文章が暗唱できるようになります。

【暗唱の手順 一か月分】

・一週目に、**1**から**3**の文章を暗唱できるようにします。

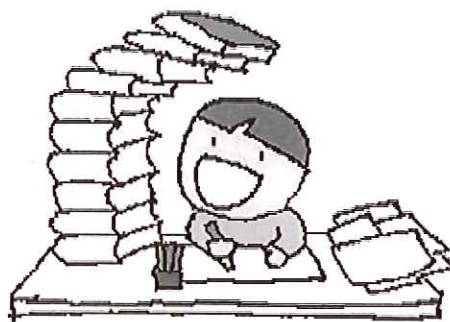
・二週目は、もう**1**から**3**はやらずに、今度は**4**から**6**の文章を暗唱します。

・三週目は、同じように、**7**から**9**の文章を暗唱します。

・四週目は、**1**から**9**の文章を全部通して、毎日四回ずつ音読します。

【暗唱の活用】

・暗唱のコツをつかむと、自分の好きな本の一部を暗唱したり、英語の教科書を暗唱したりできるようになります。また、覚えるつもりがなくても、物事が頭に入りやすくなります。



作文は、いつもよいところを見て、楽しく長く続けるのが上達するコツです。

ホッチキスの針の部分は、セロテープなどでとめてお使いください。



言葉の森 234-0054 横浜市港南区港南台4-3-1 電話 0120-22-3987(045-830-1177)